

Ⅲ 会議の検証

1 各アンケート結果からの検証

参加者の意見や評価を把握し、今後の住民参加に係る取り組みの参考とするため、参加者及び不参加者にアンケート調査を実施し、参加者29名中、事前アンケート26名(回収率89.7%)、事後アンケート22名(回収率75.9%)、不参加者アンケート432名(回収率:30.2%)の回収を得た。

(1) 無作為抽出による参加依頼について

参加者事前アンケートでは53.8%の方が良いという回答であって、参加者事後アンケートでは81.8%の方が良かったという回答となっている。このことから、大部分の方が依頼方法を肯定している。

(2) 会議の日数について

参加者事前アンケートでは3日間が適当(34.6%)、4日間が適当(26.9%)であり、参加者事後アンケートでは4日間はちょうど良かった(50%)という回答となっている。このことから、概ね4日間の会議日数で良かったと考えられる。しかし、不参加者アンケートの回答の中において、4日間は多すぎという回答が25.9%あることから、討議テーマによってはもう少し短い日数設定も考えられる。

(3) 会議開催の曜日について

参加者事前アンケートでは土日の昼間が良いという回答が50%を占めており、日曜日の午前から昼過ぎに実施したことは良かったと考えられる。しかし、参加者事前アンケートにおいて15.3%が平日が良い、また、不参加者アンケートにおいても29.2%が土日は都合が合わないという回答であったことから、他団体で試みられているように平日と土日の両方に日程設定して選択してもらうことも考えられる。

(4) 討議時間について

参加者事後アンケートでは40.9%がちょうど良かった、31.8%がもう少し長いほうが良いという回答であった。このことから、討議時間についても概ねちょうど良い時間であったと思われるが、討議グループによっては設定されている時間をオーバーしてしまうことも当日見受けられた。今後は、討議からグループ発表までの時間設定に余裕を持たせることも考えられる。

(5) 会議の公開について

参加者事後アンケートにおいて、36.4%がどちらでも良かった、27.3%が公開した方が良かったという回答であった。また、公開の対象については、56.3%が住民の方のみ(参加者以外)であったことから、今後は、公開することを明記したうえで参加依頼し、公開して実施することにより参加者以外の住民の方への参加意識・興味等の高揚につなげることを検討することとする。

(6) 参加理由及び今後の住民参加機会への参加意向について

参加者事前アンケートにて38.5%が選ばれたからには参加しようと思った、34.6%が町のために協力したかった等、会議に対して前向きに捉えられている方が多いこともあり、参加者事後アンケートにおいては、今後の住民参加機会への参加意向について95.4%が参加したいという回答であった。行政に関心のある新たな人材の発掘及び住民協働意識の高揚という会議の目的につながっているといえる。今後、このような住民参加意識の高い人的資源の活用を図ることが今後の課題といえる。

(7) 今後の討議テーマについて

参加者事後アンケートにおいて15の回答があったが、今回の討議の中において話題になっていた新都市と古町といった地域間の交流や町の賑わい作り・活性化といったテーマが回答されていた。今回のテーマが総合計画の基本目標に沿ったものであったため、大きなテーマとなり討議しづらかった面もあり、より具体的なテーマを望む回答が多かった。

2 その他の検証

(1) 募集人数を上回る参加承諾者のため参加者抽選をおこない、偶然に参加決定者は1:1となったが、討議において様々な意見を出し合っていたことが重要でもあり、男性・女性が均等に、また、各年代においても均等に選ばれるよう工夫することが必要である。

(2) また、参加者抽選による参加者決定後に辞退者が出たために、当初予定の参加者より1名少ない人数になってしまった。今後は、予備人数を確保するもしくは、辞退者発生を見込み多めの参加者とすることも検討が必要である。

(3) 参加者アンケートにおいてもご指摘を受けているが、今回の討議テーマ

は大きく抽象的なものであったため、意見が出しにくい参加者の方も見受けられた。今後はより具体的な課題・事業等において開催することを検討すべきである。

(4) 当日、欠席される参加者の方が数人いたために、討議するグループが形成できないことが多々あった。第3回目以降においては、参加者に欠席される場合の事前連絡の依頼等にて調整しようとしたがうまくいかないことがあった。今後はグループ人数の調整もしくは開催日数等の検討にて配慮する必要がある。

(5) 情報提供として当日に資料を配布しプロジェクターにて、町の事業等の説明を実施したが、よりテーマに関する知識・町の現状等を認識していただくためには、会議の事前に郵送等にて配布して読んでもらっておくことにより、よりスムーズな討議につながることも考えられる。

(6) グループ討議の後の発表においては、慣れていない方にとっては負担になってしまうこと考慮して、発表については各グループにまかせた。しかし、参加者アンケートにもあるとおり、討議内容が十分に他の参加者等に伝わらない場合もあった。参加者アンケートに討議の経過についても大事にして欲しいとの意見もあり、討議内容・経過について他の参加者に伝わり結果にも反映できる手法を検討する必要がある。

(7) 進行役（ファシリテーター）の役割が非常に大きく、今後はテーブルサポーターとして各討議グループについていた職員による進行等を検討する必要がある。